

一般質問

12月定例会では、22人の議員が市政について質問しました。
なお、質問項目中、大字の項目を掲載しています。

- 柴田 泉議員（自民清風会）
・新一般廃棄物中間処理施設
・財政
・防災
・市道丸岡線
・基幹バスの試行運行
- 加藤 学議員（ゆうあい21）
・学校給食
・放課後子ども教室推進事業
・防災対策
- 職員の定員管理の適正化
- 安形 光征議員（自民清風会）
・額田地区の小学校統廃合
- ・額田地区市民ホームの建設
- ・鳥獣害対策
- 築瀬 太議員（自民清風会）
・災害時要援護者支援
- ・いのちの教育アクションプラン
・新学習指導要領への移行措置への対応
- ・小児難病患者への支援
- 三宅 健司議員（ゆうあい21）
・豪雨災害対策
- ・防犯灯
・自転車利用
・雇用対策
- ・職員のコンプライアンス
- 神谷 寿広議員（自民清風会）
・大型集中豪雨に備える治水体制
・矢作川右岸堤防リフレッシュ道路
・都市計画道路橋日本郷線
・北野幹線水路の上部利用構想と整備
- ・矢作北小学校の校舎増築
- 村越 恵子議員（公明党）
・平成20年8月末豪雨
・福祉の村の見直し

市政のここが聞きたい

- ・中小企業への緊急保証制度
- ・藤川地区整備計画
- ・妊産婦健診の完全無料化の実施
- ・鳥獣被害防止特措法に基づく鳥獣被害対策の推進
- ・消防団退団者の消防活動
- 畔柳 敏彦議員（公明党）
・定額給付金
・しよがいの者福祉
- ・市内地域の諸課題
- 野村 康治議員（自民清風会）
・市長の今後4年間の施政方針
・教育現場の先生不足
- ・北部学校給食センターの残菜処理
・災害対策
- 吉口 二郎議員（自民清風会）
・平成20年8月末豪雨
・レジ袋の有料化
・乳がん検診
- ・内田修ジャスココレクション
- 米村 賢一議員（ゆうあい21）
・平成20年8月末豪雨
- 鈴木 雅子議員（無所属・日本共産党）
・平成20年8月末豪雨の教訓を生かした水害対策
- ・市長の公約
・不況の波から雇用・経営を守る施策
- 井手瀬 絹子議員（公明党）
・水に親しむ環境整備
・第3子以降の保育料無料化の拡大
- ・団塊世代の地域活動支援
・手話通訳者等派遣事業
・妊婦のシートベルト着用
- 加藤 義幸議員（自民清風会）
・幼稚園の運営
・消防団員家族慰安会
- ・平成20年8月末豪雨とその対策
・道路整備
- 柵木 誠議員（無所属）
・災害に強く安全・安心なまちへの整備と組織
- ・子供の育成事業
- ・南部地域に高校の新設
・力又一練習場の整備
- 近藤 隆志議員（自民清風会）
・8月末の豪雨災害と今後の対策
- 梅村 順一議員（自民清風会）
・図書館交流プラザ
・中央図書館
- ・東岡崎駅周辺整備事業
- 中根 薫議員（無所属・民主党）
・福祉の村「希望の家」
・本市NPO法人調査
- ・シティーマラソン
- ・通称「滝バイパス」の供用開始
- 柴田 敏光議員（ゆうあい21）
・水害対策
・地震対策
- 野澤 幸治議員（ゆうあい21）
・観光行政
・裁判員制度
- ・子ども科学館
- 木全 昭子議員（無所属・日本共産党）
・災害に強いまちづくり
・暮らしと福祉を守る施策
- ・市民の命を守る医療体制
- 小野 政明議員（自民清風会）
・市長の政治姿勢と財政
・水害対策
- ・万有製薬跡地の問題
- ・市民病院
・行政改革

基幹バスの試行運行

■柴田 泉（自民清風会）

問

平成20年11月より開始された基幹バスの運行により、通院時間の短縮が図られ地域住民から感謝の声を聞いている。しかし、額田支所・市民病院線は沿線人口の少なさから廃止を心配する声もあるが、今後の考え方は。

答

本市では、公共交通のネットワークとして市内バスの骨格となる基幹バス路線の実験運行を行っており、既存のバス路線と連携した持続可能なバスネットワークを構成することが大きな目的である。本市の総合交通政策では、都心地域と郊外中山間地を結ぶ路線のうち、基幹バス路線を優



基幹バス（岡崎拠点快速バス）

先に確保すべき路線として位置付けており、バス事業者及び行政の責任で維持及び確保していくことを目指している。

防災対策

■加藤 学 (ゆっあい21)

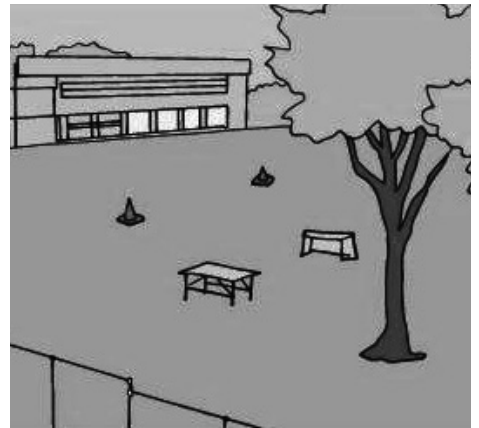
問 六名地域は、高台の地域からなるが、排水は占部川しかなっているが、排水は占部川しかなく、冠水の常襲地帯である。その対策として六名貯留池が建設されたが、ここ数回の豪雨には対応できていない。現在実施されている対策や新規事業の検討について伺う。

答 占部川においては、今後おおよそ5年間を目標として広田川合流点から針崎ポンプ場までの区間の改修と、橋の架け替え及び遊水地の緊急的な整備に向けて、県と協議を進めている。また、下水道事業では、雨水幹線整備を河川事業と連携して進めるほか、新規事業として矢作川への放流の可能性を含めた対策を考えていきたい。

額田地区の小学校統廃合

■安形 光征 (自明清風会)

問 地域コミュニティの拠点でもある額田地区の小学校の統廃合における跡地の活用は、



どのような要望が出されているか。また、その要望に対する本市の考えを伺う。

答 平成22年から廃校となる3校の跡地については、千両町小学校は子ども科学館の分館に、大雨河小学校は額田歴史資料館に、鳥川小学校は鳥川ホタルの里の拠点施設などに活用する要望が挙げられている。利用可能な施設は引き続き有効に使っていく方針であるが、財政状況のほか施設の必要性や効率性及び地域の均衡などを検討し結論を出していく。また、管理運営に当たっては学区の協力が不可欠であり、協力体制の構築を地域に要請していく。

災害時要援護者支援

■築瀬 太 (自明清風会)

問 8月末豪雨で亡くなられた2名の方は、いずれも災害

時要援護者と言われる方であった。災害発生時は地域住民同士の支え合いが重要と考えることから、今後の具体的な災害時要援護者支援制度の推進方を伺う。

答 見守りや救助のための必要最小限の情報を記載した災害時要援護者情報を、本人の同意を得たうえで個人情報に充分配慮して地域支援者に配付している。しかし、地域への配付の了承は、11月1日現在で災害時要援護者全体の58%にとどまっている。今後も該当者への郵送による制度の案内や障害者手帳取得者への窓口説明などにより周知するとともに、地域支援者との連携を深めて支援制度の拡充に努めていく。

防犯灯

■三宅 健司 (ゆっあい21)

問 住宅地の増加とともに防犯灯の設置要望も増えているが、設置状況は。また、最近開発された発光ダイオード(LED)の防犯灯は、指向性が高く路面のみを効果的に照らすため、設置台数を減らしても従来と同じ防犯効果を維持できると聞かすが、導入について伺う。

答 平成20年度の防犯灯の設置は800灯近くになる予定で、総数は2万4千灯を超える見込みである。LED型防犯灯は、



本宿自転車駐り場

高価であるが、電気料金が安く、長寿命であるため、20ワット蛍光灯に代わる防犯灯として注目されている。本市では、試験的に本宿自転車駐り場に1灯を設置しており、今後、他市の導入状況を調査し研究していく。

大型集中豪雨に備える治水体制

■神谷 寿広 (自明清風会)

問 西部地域の住民は、水害のない安心して暮らせる生活環境を望んでおり、県営湛水防除事業の早期完成が地域住民の切実な願いである。そこで、平成27年度に完成が予定されている本事業の動きについて伺う。

答 中小洪水時にも被害が発生することから、この事業に対する地元からの早期完成の要望は承知しており、先般の8月末豪

雨で発生した被害も踏まえ、県当局へ地元の切なる声を届けて要望してきた。その結果、地元関係者や議員の熱意が通じ、完成予定が2年間前倒しされるとの報告を県から受けた。今後も完成予定の25年度までに確実に事業が遂行されるよう強く県に要望していく予定である。

福祉の村の見直し

■村越 恵子 (公明党)

問 障害者自立支援法の施行により、障害児・者の施設サービスは平成24年3月末がサービステキ移行の期限となる。障害者福祉計画の目標達成に向け、福祉の村の施設の再配置や見直しの時期が来ているが、検討状況は。

答 福祉の村は、施設の老朽化や利用者ニーズと合わない



福祉の村

などの状況から、そのあり方について社会福祉審議会の障害者福祉専門分科会に諮問している。市からは、発達障害などの新たな福祉ニーズに対応できるよう医療機関、肢体不自由児通園施設、知的障害児通園施設などからなる「子ども発達センター」の設置などを含むたき台が示してあり、21年3月末に答申を受ける予定で作業を進めている。

定額給付金

■畔柳 敏彦 (公明党)

問 世界経済は百年に一度の危機に直面していると言われ、日本経済に深刻な影響を与えることは必至である。国は27兆円規模の経済対策を発表し、2兆円規模の定額給付金を生活対策の目玉としているが、本市の支給対象への所得制限の考えを伺う。

答 想定外の経済状況の中で、製造業を中心に派遣社員の契約打ち切りなど、本市だけでなく各地でいろいろな問題が発生し、市民生活への影響が大変心配されている。今年度内に交付が予定されている定額給付金の所得制限などについては、全国市長会を始め関係団体で議論がされてきた。本市としては、経済対策の公平性の観点から所得制限を設けない方針で準備を進めたい。

市長の今後4年間の施政方針

■野村 康治 (自民清風会)

問 市民病院では医師不足により診療制限をしていた消化器科と耳鼻咽喉科を12月1日から解除したが、今後の医師の確保について方策を伺う。

答 医師の確保は医師が働きたいと思う魅力ある病院になることが重要と考え、医療を行いやすい環境を整備し、その結果を評価できるようにすることを戦略として、給与等の改善や研修体制の見直しなどを行ってきた。平成21年度研修医採用予定14人に対して41人の応募があったことは、これらの対策が高く評価されたものと考えている。今後も医師の労働環境の整備や採用条件の改善とともに、臨床研修指定病院として多くの研修医を受け入れ、必要な医師の育成を行っていききたい。



市民病院

内田修ジャズコレクション

■吉口 一郎 (自民清風会)

問 内田修ジャズコレクションが、貴重な文化財産として「リぶら」に展示されたことは高く評価している。今後は生涯学習の拠点として、また岡崎らしさの発信のために活用していくべきと考えますがその方策は。

答 現在、若い世代の演奏者の育成を目的とする子どもジャズワークショップの開催が決まっている。また、ジュニアジャズオーケストラ結成の希望もあると聞いており、「リぶら」のホールなどの利用促進と併せて岡崎の新しい音楽活動を支援していきたい。更にジャズコレクションの積極的なPR活動の展開など、ジャズの街岡崎を全国に発信できるように、総合的かつ効果的な手法を検討していく。

平成20年8月末豪雨

■米村 賢一 (ゆづあい21)

問 稲熊地区は東海豪雨で大きな被害を受けたことから内水排除ポンプが設置されたが、今回の豪雨では排出先の小呂川から逆流し効果がなかった。伊賀川の整備完了まで5年以上かかることから、直接伊賀川へ排出できる内



平成20年8月末豪雨

水排除ポンプをもう1カ所設置すべきと考えるが見解は。

答

東海豪雨での浸水被害を受け、平成14年度に排水用として小呂川へ2台と伊賀川に1台の内水排除ポンプを設置した。その後、小呂川のポンプは増強及び改良を行ったが、今回の豪雨では排出先の小呂川で溢水が発生した。今後は排出先を伊賀川へ変更することやポンプの増設について、来年度の出水期前までに対応できるように県と協議を進めている。

市長の公約

■鈴木 雅子(無所属・日本共産党)

問

先の市長選挙において、他の候補は後期高齢者医療制度の廃止や75歳以上の医療費無料化、農産物の価格保障による食の安全などを掲げて3万9270票を得たが、この結果に対する考えを伺う。また、公約実現に係る財政計画についても伺う。

答

選挙は結果。信任を得たことで自信を持って市政を進めていきたい。また、今は災害の後であり、現段階での優先事項は災害対策と考えている。「入るを量りて出ざるを制す」の精神で、公約した事業だけに限らず全ての事業について、歳入に応じた計画変更など柔軟に対応していくことが重要であり、財源的裏付けを検討しながら年次計画を立てて進めていきたい。

水に親しむ環境整備

■井手瀬 絹子 (公明党)

問

奈良井公園のせせらぎ水路は、市内で唯一、小さな子どもが安心して水遊びができる場で、今年の夏も連日多くの子ども連れが楽しんでいた。水遊び場は子どもの遊び場としてなくてはならないものと考えているが、既存の公



奈良井公園せせらぎ水路

答

園や今後設置する公園への水遊び場の整備について考えを伺う。

せせらぎ水路は、ワークシヨップの意見を整備計画に反映して平成18年度に設置した。同様なものとして、六名公園において21年の春より水遊びができる施設として利用してもらえるよう改修を進めている。また、新しく設置する公園においては、公園の規模や設置場所の条件、管理上の問題などを総合的に判断し決定したい。

平成20年8月末豪雨とその対策

■加藤 義幸 (自民清風会)

問

今回の豪雨では、広田川に合流する砂川、占部川、上地新川の流域内で、かつてない浸水被害が発生した。特に、降雨時に付近の流水が集中する上地新川の流域では少しまとまった雨でも住宅が浸水する恐れがあるが、今後の対策について伺う。

答

広田川流域の緊急的な整備を進めるために、県と2市3町で構成する検討会が平成20年10月に設立され、対策を協議している。上地新川については、16年度に県道岡崎幸田線から上流区間の改修を終え、現在は下流区間の河道予備設計を進めている。県道衣浦岡崎線との交差点付近の浸水対策については、今後進める河川

改修も考慮し、効果的な対策について検討を進めていく。

子供の育成事業

■柵木 誠 (無所属)

問

幼児の遊具使用による事故がよく報道されているが、本市における遊具の安全点検方法及び新しく公園を設置する場合の取り組み姿勢について伺う。

答

公園遊具の点検は、国の安全確保に関する指針に基づき専門業者に委託している。部材の欠損などを目視や触診で確認する年4回の日常点検と、木づちなどを使い打診して腐食状況を確認する年1回の定期点検を行っており、この点検で不具合が見られた場合は専門技術者による精密点検を行っている。また、新たな公園を設置する際には、人の動きや安全領域に配慮した配置計画を行うとともに、安全性を確保するた



公園遊具

め材質や構造などが国の指針に適合している遊具を設置している。

8月末の豪雨災害と今後の対策

■近藤 隆志 (自民清風会)

問 小呂川の流量制限ボックスの撤去に関する本市の考えは。また、今回の集中豪雨で被災された稲熊地区の住民の不安を解消できるよう、要望の出ている川の浚渫など水害対策を早急に講じる必要があると考えるが、対応について伺う。

答 伊賀川中流部区間の改修に併せて合流点ボックスも改修されることとなったため、浸水対策は大きく改善されると考えている。また、地元住民から要望が出ている中州に堆積している土砂の浚渫や河川浄化事業で設置された石の撤去については順次行っていくきたい。更に、堤防のかさ上げなどについても現地を調査し、異常があれば必要な対策を講じていきたい。

中央図書館

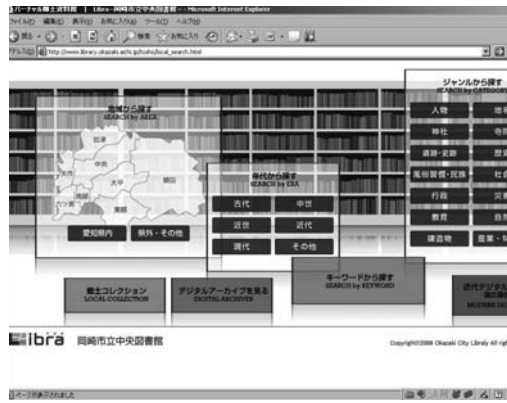
■梅村 順一 (自民清風会)

問 近年著しい情報社会化が進み、インターネットが図書館を代替する能力や機能を備えてきている。また、文部科学省の生涯学習審議会図書館専門委員会か

らは図書館の情報センター化構想も出されたが、インターネットを利用し電子図書を出し出す電子図書館に対する本市の考えを伺う。

答

新図書館では郷土資料の古文書をデジタル化し、ホームページに掲載している。更にビジネス支援の一環として新聞記事や法令関係、科学技術情報などを館内のパソコンで公開し、電子図書館のサービスの一部を開始している。今後、電子図書館を導入する自治体も増えると予想され、電子図書館としてのあるべき姿や運用などを研究していく。



バーチャル郷土資料館(中央図書館ホームページ)

シティーマラソン

■中根 薫 (無所属・民主党)

問 東京都や名古屋市だけでなく、豊橋市や豊田市でもシティーマラソンが盛大に開催され

ている。多くの参加者が集まり活性化が期待されることから、本市での開催の考えは。

答

本市では11月におかざきマラソンを開催し、1月には新春乙川マラソン及び市民駅伝競走大会を開催している。各競技大会は、岡崎警察署や競技団体を初め、多くのボランティアの方々の支援と協力によって長年続いてきた歴史ある大会であり、おかざきマラソンでは昨年に比べ1.5倍の参加者があった。新規のマラソン大会の開催や既存大会の距離の延長は多くの課題があるため、今後はハーフマラソンの大会が開催できるか調査し検討したい。

水害対策

■柴田 敏光 (ゆうあい21)

問 8月末豪雨により、すり鉢状の地域である大平町建石・新寺地域及び緑丘2丁目地域等は、排水経路の不整備や集水不足のため雨水をけ切れず床上浸水などの被害が発生した。地域によって水害対策は異なると考えるが、その対策について伺う。

答

大平地域は既存の排水路や道路側溝等で雨水処理を行っている。今後は、他の浸水地区と同様に浸水状況の調査結果を検証し、その対応策を検討していく。また、緑丘2丁目と美合町老婆懐

提言を!

○市議会だよりのご感想・ご意見・ご要望などがありましたら、ぜひお知らせください。あて先〓裏表紙参照 電話〓23・6381

詳しく知りたいかたへ

本会議の詳しい内容を知りたいかたは、東庁舎2階市政情報コーナーか図書館、または各支所にある会議録をご覧下さい。12月定例会の会議録は、3月初旬に配本予定です。なお、岡崎市ホームページにも会議録を掲載しています。
(http://www.city.okazaki.aichi.jp/)

議会を傍聴してみませんか

本会議の傍聴は本会議場入口で、また委員会は委員会室入口で、住所・氏名をご記入いただくだけです。お気軽にお越しください。次の3月定例会開催予定は最終ページのとおりです。

地域は雨水がたまりやすい地形のため、応急的な対策として集水ますや横断側溝の設置を考えている。今後の恒久的な水害対策は、浸水状況を検証し、地域に適した対策を講じていく。



観光行政

■野澤 幸治 (ゆうあい21)

問 中岡崎駅前にある無料駐車場は、通勤客の長時間駐車により昼間の駐車がほとんどできない。また、利用者のごみの放置も後を絶たないため、地元住民が清掃奉仕をしているのが現状である。地元からは駐車場有料化の要望が出ていると聞くが、市の対応について伺う。

答

中岡崎駅の駅前広場はJR・名鉄・本市の3者で維持管理を行っているが、駐車場が無料

であることからさまざまな問題が持ち上がり、地元から利用規制の要望が出ている。この広場の公共性や利便性の機能を維持しながら節度ある利用を図るため、民間事業者に運営を任せ有料駐車場として平成21年3月中旬をめどに整備していく。

災害に強いまちづくり

■木全 昭子(無所属・日本共産党)

問 小呂川は上流部の開発により遊水地がなくなり、8月末豪雨では川の許容能力を超えて溢水し被害が発生した。県は伊賀川の改修を決めているが、これと同時に小呂川の改修も行うべきと考えが見解を伺う。

答

小呂川は県の河道改修計画と併せ効率的な浸水対策を



伊賀川と小呂川の合流点

行うとともに、旧食肉センター跡地の利用についても検討していく。また、今回の豪雨で制御盤が浸水した稲熊8丁目の内水排除ポンプも、平成21年度のポンプ増設工事とともに出水期までにかさ上げ工事を行っていく。更に、伊賀川合流点から準用河川ミタライ川合流点までの河床の石の撤去についても浚渫工事に含めて21年度から順次実施していきたい。

万有製薬跡地の問題

■小野 政明 (自民清風会)

問 万有製薬跡地に建設が予定されている高齢者生きがい施設の整備目的と事業効果は。

答

高齢者の生きがいづくりを充実させ、質の高い暮らしを実現していくため、施設には就労、社会参加、生きがい、健康づくりの四つの機能を導入して、より充実した効果的なサービスの提供を行っていききたい。効果としては、シルバー人材センターや老人クラブの組織を活用した事業展開が可能となり、組織の活性化や活動内容の充実を図る事ができる。また、高齢者の健康づくりを始め生きがい対策の事業を総合的に実施することにより、医療費などの社会保障費の抑制効果が期待できることから、十分精査・検討し事業を進めたい。

議会を傍聴して

○各議員からの質問事項とその回答は、市として大変重要な事項が多く、市民が積極的に参加すべきと思いましたが。ミクスの放送もありますが、傍聴する人が少ないと感じました。

(男性 70歳)

○今回初めて傍聴しましたが、自分たちの選んだ議員さんがどのような考えで今後取り組んで行くのかがよくわかりました。

(男性 39歳)

○議員からの真剣な提案・質問に対し行政側から明確な答弁がなされていた。岡崎市の将来が子ども達にとって明るいものであることの確信を得ました。もっと市政に関心を持つ市民が増えることを期待したい。私も他の人を誘って、今後とも市政を見守りたい。

(男性 60歳)

○議員の皆さんが市民の不安や疑問を率直に質問していただいていること、行政の皆さんが誠実にお答えいただいている努力に敬意を表したいと思えます。今後、世界金融恐慌の影響で、税収等不安もありますが、健全な財政運営をお願いします。

(男性 33歳)